OB 通信

鳳　翩

＝　２０２２年１２月号　＝

【鳳翩山山頂】

山口大学ワンダーフォーゲル部 OB 会

鳳翩会

もくじ

						ページ
１	会長挨拶			鳳翩会会長	田村　伊正	１
２	総会報告			副会長	三國　彰	１
３	支部報告					
	東京支部　活動報告			東京支部　事務局	秋山　高弘	９
	九州支部　活動報告			九州支部　支部長	龍　純二	１０
	山口支部　活動報告			山口支部　支部長	坂田　信一	１２
４	ＯＢ通信報告					
	２０２０年ＹＵＷＶ「ＯＢ総会 in 湯布院」を終えて					
		Ｓ６１	経済	九州支部	天野　雅紀	１４
	ＯＢ総会出席・由布岳登頂	Ｓ４７	文理	東京支部	惠谷　浩	１８
５	同窓会だより					
	５４同期会　夏の北アルプス２０２２					
		Ｓ５４	文理	東京支部	濱野　宏	１９
	昭和６０年度卒部　同期会を開きました					
		Ｓ６０	農	山口支部	齊藤　昌彦	２０
６	エッセイ					
	関門海峡に想う	Ｓ５９	経済	九州支部	前田　孝志	２１
	旅鉄	Ｓ５１	工	関西支部	池田　純	２２
	車窓より	Ｓ４８	経済	関西支部	上田　功	２３
	フランスドライブ旅行	Ｓ５３	経済	東京支部	秋山　高弘	２４
	全行程を歩く古式富士登山旅日記	Ｓ４７	文理	東京支部	惠谷　浩	２６
	廃れゆく登山道	Ｓ４５	経済	九州支部	武富（伊藤）敏夫	２７
７	近況報告					
	俳句クラブに入ってしまい	Ｓ４７	工	東京支部	福永　俊美	２９
	萩往還ガイド１１年	Ｓ５２	経済	山口支部	古谷　眞之介	３０
	私の近況報告	Ｓ４７	文理	山口支部	野村（内田）英昭	３１
	穂高の夏は雨だった	Ｓ５５	経済	関西支部	山本　剛士	３２
	２０２２　１０月立山登頂	Ｓ４７	文理	東京支部	惠谷　浩	３３
	６７才の登山事故	Ｓ５１	経済	九州支部	岩本　信弥	３４
８	事務局長挨拶	人文学部４年		事務局長	籠　広二	３４
９	現役報告	経済学部２年			木村　幸誠	３５
１０	ＯＢの皆さまへのお願い			副会長	三國　彰	３６
１１	２０２２年度本部・支部役員連絡先			副会長	田原　宏	３７
	編集後記					

１．会長挨拶

鳳翮会会長　田村伊正

鳳翮会会員の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。また、常日頃より、鳳翮会の運営に関しまして温かいご理解とご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

今年のＯＢ総会は、山口大学ワンダーフォーゲル部が創部されて６０周年の節目の年の開催となりました。

新型コロナ感染拡大に伴い、OB 会活動の主行事である総会を２年間開催することができませんでしたが、九州支部の皆様のご努力で、盛会に終えることができました。会員を代表してお礼申し上げます。

総会や現地ツアーの詳細な報告は九州支部がされていますが、世代を継ぎながらも創部黎明期の気質が脈々と育まれてきた事に、改めて諸先輩の皆様に畏敬の念がこみあげてきました。

若い世代のＯＢ諸氏の方々にも、支部活動や同期会活動を活用されながら古の縁を探訪していただければと願うばかりです。

来年は関西の地にて、皆様と懇親を深めることができそうです。お待ちしております。

２．総会報告

令和４年度 YUWVOB 会（鳳翮会）総会が、下記のとおり開催されましたのでご報告します。

１　日時　　２０２２年１０月２２日（土）～２３日（日）
２　場所　湯布院倶楽部（大分県由布市湯布院町川上２９５２－１
３　議事

今年度総会においては以下のような議案が提出され、討議の結果、それぞれの議案は賛成多数により承認されました。

１．第一号議案　２０２１年度事業状況報告及び会計決算報告と監査報告

まず令和３年度（2021 年 1 月 1 日～2021 年 12 月 31 日）の事業について報告します。本年度は新型コロナの感染対策としての自粛要請等により、団体としての集会に慎重な姿勢が望まれている中、Web による会議開催や書面による連絡が運営の主流となりました。ワクチンの接種は進んでいるようですが、依然として感染の推移は予断を許さない状況にあり、今後の行事予定に多くの変更が生じることが予想されます。

《令和３年度事業報告》
（１）令和３年度上期の事業
　１）ＯＢ通信の１回発行
　　① ８月号の発刊
　　② 総会中止による総会の書面決議の通知
　　③ 総会の中止に伴い１２月号の休止
　　④ ８月号を 54 ページに及ぶ特集号として編集
　２）山口大学ワンダーフォーゲル部に対する支援
　　① 卒部生歓送会への記念品贈呈（真空断熱タンブラー）
　　② 現役支援金の授与

３）役員会等の開催

① 役員会３回（２月20日、3月９日Ｗｅｂ会議、５月12日Ｗｅｂ会議）

② 本部役員・支部長会議（５月26日：Web 会議）会誌、総会についての審議

③ 2020 年度会計監査２０２１年2月20日監査役：斎藤昌彦、平野展康

④ 次期会長選考委員会の設置（総会が中止の為、８月発行会誌にて会長承認手続き））

４）２０２１年総会の中止決定

① 九州支部で予定された２０２１年総会を中止し、２０２２年総会を九州支部で開催に変更。

（2）令和３年度下期の事業

１）ＯＢ通信（会誌）の発行

① ８月号の発刊。2020 年と同様の特集号企画。

② 12 月号休止

２）山口大学ワンダーフォーゲル部に対する支援

① 海浜合宿の支援（感染対策状況により中止）

次に２０２１年度会計決算報告と監査報告をします。

まず、令和３年度収支計算書についてご報告いたします。収支決算書をご参照ください。2021年入金会費２2,000円と2021年預り金会費振替３４８,000円で収入の部合計は３７０,000円です。

本年度も昨年に引き続き新型コロナ感染防止策のため、ＯＢ総会は中止となり、それに伴いＯＢ通信は、８月発送時のみの発刊となりました。そのため支出の部はOB 通信発送関連とその他経費となります。

今年度も追いコン、海浜合宿中止となりそれぞれの支援はありませんでしたが、卒部生に記念品を渡しています。OB 通信（8月・１2月合併号）関連経費は１７１，８２８円、その他の経費８2,４９２円で支出の部合計は２５４，３２０円となります。従って 2021年収支はプラス１１５，６８０円となります。前年度繰り越し剰余金は７１３,３８１円であり、これに当年収支と現金の翌年度繰越金をプラスすると翌年度繰越金は８２９，０６１円　になります。

収支計算書（ 2021年1月1日 ～12月31日）

鳳翻会

（単位：円）

			比率
収入の部			
	2021入金会費	22,000	
	2021年預り金振替	348,000	
	収入の部合計	370,000	100%
支出の部			
	【OB通信8月号関連】		
	1） OB通信印刷代	101,640	
	2） 葉書、封筒、コピー、用紙、タックシール代等	24,188	
	3） 郵送代	46,000	
	4） OB通信発送協力費	0	
	小計	171,828	46.4%
	【OB通信12月号関連】		
	※ 発送中止	0	
	小計	0	0.0%
	【OB総会】		
	※ 新型コロナ感染防止のため中止	0	
	小計	0	0.0%
	【その他】		
	1） 会計監査参加助成金	0	
	2） 記念品代	13,040	
	3） ホームページ運営費	5,362	
	4） 事務局費	10,000	
	5） 現役支援金	50,000	
	6） ファイル等消耗品	3,670	
	6） その他（郵送費等）	420	
	小計	82,492	22.3%
	支出の部合計	254,320	68.7%
収支			
	2021年収支	115,680	31.3%
剰余金			
	前年度繰り越し	713,381	
	※翌年度繰り越し	829,061	

備考：追いコン中止のため、卒部生に記念品（令和元年～令和３年）を渡しています。

次に、2021年12月31日現在の貸借対照表についてご報告いたします。貸借対照表をご参照ください。現金期首残高１９，３４３円、預金の期首残高 1,681,038円で資産合計１７００，３８１円です。当年入金会費等の増加３８０,000 円、当年経費支出等による減少２５４,３２０円で、預金の期末残高は1,８２６,０６１円となります。（広島貯金事務センター振替受払通知表　２８号（令和3年１２月１７日）の現在高と一致）　会費預り金の期首残高　９８７,000円、当年会費入金３８０,000円、当年会費への振替３７０,000円であり、会費預り金の期末残高は９９７,000円となります。なお、会費預り金987,000円の2021年以降の内訳は期末残高のとおりとなります。剰余金の期首残高は７１３，３８１円、当年の収支はプラス１１５,６８０円であり、余剰金の期末残高（翌年度繰越金）は８２９,０６１円となります。以上から負債及び余剰金を合計した期末残高は1,８２６,０６１円となります。

貸借対照表(2021年12月31日現在)

鳳翩会
(単位:円)

	科　　目	期首残高	当　　年		期末残高
			増加	減少	
資産の部	現金	19,343	0	19,343	0
	預金				
	広島郵便貯金ｾﾝﾀｰ	1,681,038	380,000	254,320	1,806,718
	預金計	1,681,038	380,000	254,320	1,806,718
資産合計		1,700,381	380,000	254,320	1,826,061
負債の部	未払費用	0	0	0	0
	会費預り金				
	2021年	348,000	22,000	370,000	0
	2022年	241,000	94,000		335,000
	2023年	174,000	70,000		244,000
	2024年	101,000	62,000		163,000
	2025年	52,000	61,000		113,000
	2026年	23,000	53,000		76,000
	2027年	14,000	8,000		22,000
	2028年	8,000	4,000		12,000
	2029年	8,000	4,000		12,000
	2030年	8,000	2,000		10,000
	2031年	4,000	0		4,000
	2032年	4,000	0		4,000
	2033年	2,000	0		2,000
	2034年	0	0		0
	2035年	0	0		0
	2036年	0	0		0
	2037年	0	0		0
	2038年	0	0		0
	2039年	0	0		0
	会費預り金計	987,000	380,000	370,000	997,000
負債合計		987,000	380,000	370,000	997,000
剰余金	剰余金	713,381	115,680	0	829,061
負債及び剰余金合計		1,700,381	495,680	370,000	1,826,061

振替受払通知表２８号（令和3年１２月１７日）

振替受払通知票　　01530−0−　16050　　令和　3年12月17日
広　島　貯金事務センター

通知番号及び越高			28 号	1，816，061円
受入れ	通常	払込金（一般）	口	
		払込金（新帳票）	1	10，000
		払込金（ＤＴ）		
		払込金（ＭＴ）		
		振替受入れ		
		公金払込み		
		自動払込み		
		その他受入金		
	電信	払込金		
		振替受入れ		
払出し	通常	現金払出し		
		振替払出し		
		簡易払		
		その他払出金		
	電信	現金払出し		
		振替払出し		
		加入者即時払		
		小切手払渡し		
	料金			
現在高				1，826，061

料金内訳	
払込料金	円
払出料金	
振替料金	
その他料金	

小切手番号

小切手支払保証
円

明細番号	始番号	終番号
電信受		
電信払		

《会計監査報告》
　次に監査報告を致します。平野監査役より以下の報告がありました。
「令和４年１月２９日、監査平野展康と斎藤昌彦は、令和元年度の会計帳簿、経費支出伺兼経費支出報告書と会計決算報告書の提出を受け、会計監査をおこないました。その結果は監査報告書のとおりであり、当年の収支計算及び期末現在の財産状況は適正であることを確認しました。」
会計報告、監査報告については以上です。

監査報告書

１．　監査実施年月日

　　令和４年　１月２９日（土）

２．　監査の場所

　　やまぐち県民活動支援センター　交流ルーム

３．　監査に立ち会った者

　　鳳翼会 会長　　田村　伊正

　　鳳翼会 会長（前）　古谷　眞之助

　　鳳翼会 副会長　　田原　宏

４　監査平野展康並びに斎藤昌彦は、鳳翼会令和３年度収支決算書の提出を受け、各帳簿、預金通帳、証拠書類について、監査を行った結果、適正に処理されていることを認めた。

令和４年　１月２９日

鳳翼会
監査員　齊藤昌彦㊞
　　平野展康㊞

以上のとおりいたしますので、ご承認くださるようお願いします。

２． 第二号議案　令和４年度事業実施（予定）報告及び事業予算案について

２０２２年度の事業実施（予定）報告及び事業予算案について報告いたしますので、ご承認くださるようお願いします。

新型コロナ感染症対策が必要となり、ほとんどの事業が中止となっていましたが規制緩和により徐々に活動ができるようになってきました。山口大学ワンダーフォーゲル部においても7月の海浜合宿は許可され、実施することになりました。OB 会活動においては総会に向けての考え方（特にコロナ対応）を共有するため、本部・支部合同 Web 会議を実施しました。Web 会議では九州支部からの総会開催の意向を受け、本部・支部の了解を得ました。

《令和４年度事業実施（予定）報告》

（１）令和４年度上期事業経緯報告

１）山口大学ワンダーフォーゲル部に対する支援

① 卒部生歓送会への記念品のみとし、激励訪問は中止

② 現役支援金の授与

２）役員会等の開催

① 役員会２回（１月29日、６月６日Ｗｅｂ会議）

② 本部役員・支部長会議（６月19日：Web 会議）会誌、総会についての審議

③ 2021 年度会計監査 2022 年１月29日監査役：斎藤昌彦、平野展康

３）２０２２年総会の実施決定

２０２２年総会を九州支部で開催に変更。

（２）令和４年度下期の事業予定

１）総会における支援

① 総会支援金の進呈

② 現役への総会参加要請および参加支援

２）「ＯＢ通信（会誌）の発行

① ８月号の発刊

② 12月号の発刊

３）山口大学ワンダーフォーゲル部に対する支援

① 海浜合宿の支援（支援金の授与；7月９・１０日に実施）

令和4年度OB会会計中間報告(9/30)

１．入金

2022年会費預り金振替	335,000	
2022年入金会費	22,000	
寄付金	3,000	（原口様）
合 計	360,000	

２．支出

（１）既支出金		
2022年ＯＢ通信８月号関連	114,391	
OB通信印刷代		64,900
葉書、封筒、用紙、タックシール代		17,406
郵送代		32,085
その他	113,366	
会計監査参加助成金		1,600
記念品代		16,459
ホームページ運営費		5,307
事務局費		10,000
現役支援金		50,000
海浜合宿助成費（萩）		30,000
小　計	227,757	
（２）今後の支出見込金		
総会支援金（九州支部へ）	60,000	
総会(現役参加支援；２名)	30,000	
OB通信12月号発行経費	100,000	
小　計	190,000	
合 計	417,757	

３．差し引き残高見込

入金	360,000	
支出	417,757	
収支	▲ 57,757	

４．繰越金見込

前年度繰り越し金	829,061
今年度収支見込	▲ 57,757
次年度繰り越し金見込	771,304

３．第三号議案　定款の変更について

山口大学ワンダーフォーゲル部ＯＢ会（鳳翩会）の会則改正を上程し承認されました。

改　正　案	現　　行
第六章　本会には次の役員を置く。~~会計及び~~事務局長を除く役員の任期は二年とし、再任を妨げない。但し、会長の再任は一回限りとする。尚、役員の選出は会長等役員選出要領に定める。 二　会　長　　一名 副 会 長　　二名以内 幹　事　　~~五~~六名程度 支 部 長　各支部一名 ~~会　計　　一名~~ 監　査　　二名以内 山口大学事務局長　一名 ~~ＨＰ管理者　　一名~~ 三　会長は会を代表し会務を統括する。 四　副会長は会長を補佐し、会長に事故あるときはこれを代行する。 五　幹事は会長及び副会長を補佐し、会の運営を支援する。必要に応じて代表幹事を置く。 六　支部長は支部を統括する。各支部はその必要に応じて幹事等の役員を置く。 七　~~会計及び~~山口大学事務局長は山口大学ワンダーフォーゲル部の直前主将が務めることとし、鳳翩会の役員として山口大学ワンダーフォーゲルブ部との調整業務を担う。但し、直前主将に支障あるときは直前の副主将または直前主将が指名する者がその任に当たる。 八　役員の任期は一月一日から起算する。なお、任期終了後も次期役員の選出まではその任を継続する。	第六章　本会には次の役員を置く。会計及び事務局長を除く役員の任期は二年とし、再任を妨げない。但し、会長の再任は一回限りとする。 二　会　長　　一名 副 会 長　　二名以内 幹　事　　五名以内 支 部 長　各支部一名 会　計　　一名 監　査　　二名 事務局長　　一名 ＨＰ管理者　　一名 三　会長は会を代表し会務を総括する。 四　副会長は会長を補佐し、会長に事故あるときはこれを代行する。 五　幹事は会長及び副会長を補佐し、会の運営を支援する。必要に応じて代表幹事を置く。 六　支部長は支部を統括する。各支部はその必要に応じて幹事等の役員を置く。 七　会計及び事務局長は山口大学ワンダーフォーゲル部の直前主将が務める。但し、直前主将に支障あるときは直前の副主将または直前主将が指名する者がその任に当たる。 八　役員の任期は一月一日から起算する。なお、任期終了後も次期役員の選出まではその任を継続する。
（附則） 第十章　本会則の発効をもって昭和四十三年十二月制定のＯＢ会則はこれを廃棄する。 十　本会則は令和四年十月二十二日から発効する。	附則） 第十章　本会則の発効をもって昭和四十三年十二月制定のＯＢ会則はこれを廃棄する。 九　本会則は平成二十九年十月二十一日から発効する。

山口大学ワンダーフォーゲル部現役４回生の務める事務局長の役割を、現役部員との連絡調整としました。これにより現役部員への負担を軽減します。また、複数幹事によるスムーズな引継ぎが出来ればと考えております。

４．第四号議案　令和５年秋季総会の開催地について

改　正　案	現　行
第六章　本会には次の役員を置く。~~会計及び~~事務局長を除く役員の任期は二年とし、再任を妨げない。但し、会長の再任は一回限りとする。尚、役員の選出は会長等役員選出要領に定める。 二　会　長　一名 副会長　二名以内 幹　事　~~五~~六名程度 支部長　各支部一名 ~~会　計　一名~~ 監　査　二名以内 山口大学事務局長　一名 ~~ＨＰ管理者　一名~~ 三　会長は会を代表し会務を統括する。 四　副会長は会長を補佐し、会長に事故あるときはこれを代行する。 五　幹事は会長及び副会長を補佐し、会の運営を支援する。必要に応じて代表幹事を置く。 六　支部長は支部を統括する。各支部はその必要に応じて幹事等の役員を置く。 七　~~会計及び~~山口大学事務局長は山口大学ワンダーフォーゲル部の直前主将が務めることとし、鳳翩会の役員として山口大学ワンダーフォーゲルブ部との調整業務を担う。但し、直前主将に支障あるときは直前の副主将または直前主将が指名する者がその任に当たる。 八　役員の任期は一月一日から起算する。なお、任期終了後も次期役員の選出まではその任を継続する。	第六章　本会には次の役員を置く。会計及び事務局長を除く役員の任期は二年とし、再任を妨げない。但し、会長の再任は一回限りとする。 二　会　長　一名 副会長　二名以内 幹　事　五名以内 支部長　各支部一名 会　計　一名 監　査　二名 事務局長　一名 ＨＰ管理者　一名 三　会長は会を代表し会務を総括する。 四　副会長は会長を補佐し、会長に事故あるときはこれを代行する。 五　幹事は会長及び副会長を補佐し、会の運営を支援する。必要に応じて代表幹事を置く。 六　支部長は支部を統括する。各支部はその必要に応じて幹事等の役員を置く。 七　会計及び事務局長は山口大学ワンダーフォーゲル部の直前主将が務める。但し、直前主将に支障あるときは直前の副主将または直前主将が指名する者がその任に当たる。 八　役員の任期は一月一日から起算する。なお、任期終了後も次期役員の選出まではその任を継続する。
（附則） 第十章　本会則の発効をもって昭和四十三年十二月制定のＯＢ会則はこれを廃棄する。 十　本会則は令和四年十月二十二日から発効する。	附則） 第十章　本会則の発効をもって昭和四十三年十二月制定のＯＢ会則はこれを廃棄する。 九　本会則は平成二十九年十月二十一日から発効する。

令和５年に開催予定のＯＢ総会について、関西支部の池田支部長から引き受けの意向提案がありました。会員にお諮りしたところ、満場の賛同を得て次期ＯＢ総会開催地は関西支部と決定しました。
関西支部の皆様にはご負担をおかけしますが、宜しくお願いします。
尚、具体的な日程や場所についての計画はこれからとのことですが、令和５年の８月号でお知らせすることになります。皆様の参加をお待ちしています。

５．その他について

《ＯＢ通信 12 月号の発刊について》
ＯＢ通信 12 月号は令和４年１２月２４日を発刊予定としています。寄稿を受け付けますので支部での取りまとめをお願いします。尚、編集担当の田原副会長より改めて詳細を連絡させ知多抱きます。

3．支部報告

東京支部　活動報告

東京支部　事務局　秋山高弘

　6月に 16 名で暑気払いを行って以降、夏場は山に行かれる方も多いと考え、支部の活動は行っておりませんでした。10 月の全国総会も終わったころを見計らって、支部の皆さんに予告していた秋の山行+ハイキングを計画しました。前回山行でのリタイア発生を踏まえ、ハイキング組と山行組とが最後に合流する形を検討したのですが、結局ハイキング一本に絞っての実施となりました。

12 月３日（土）秋川丘陵ハイキング
参加した皆さんからは、「ハイキングコース」の名前に油断した、結構起伏もあり、距離も長かったとの声が多かったです。でも、お天気に恵まれ、里山を存分に楽しんだ気がします。
道を知っている者がおらず、皆で久しぶりにルートファインディングしたのも新鮮でした。
また、希望者で軽く一杯と思っていましたが、全員参加して楽しいひと時を過ごすことが出来ました。

参加者：長谷雄、三浦、木下、小関、恵谷、原、乙咩、市川、高田、松永、秋山（11 名）
コース：秋川丘陵　網代・弁天山コース、広徳寺コースをつないでハイキング
武蔵増戸駅 10：30―貴志島神社 11：15―（急登）網代弁天山 11：45―城山 12：00（昼食休憩、眺望良し）城山出発 12：30―広徳寺経由―武蔵五日市駅 14：50　立川へ出て打上げ

【今後の予定】

来年も、懇親会、山登り（ハイキング）などを企画したいと思いますが、今はコロナ第八波の真っ最中。しばらくは様子を見ながら、活動を企画することになりそうです。

九州支部活動報告

九州支部長　　龍　純二

今年の九州支部の目標はOB総会の３年越しの実施です。８月以降の活動はその実施に向けた下見とオンラインによる準備会になりました。今、無事にOB総会が実施できホッとしているところです。
OB総会当日のもようについては、天野事務局長の報告を参照ください。

10月１日（土）湯布院最終下見　　午前中からの参加者３名：木下、前田、龍
ホテル下見から参加者３名：加藤、権藤、天野

湯布院の最終下見を行いました。午前中は、由布岳登山口に集合し、由布岳山麓ハイキングのコースをベンチのあるところまで歩きました。東側に草を刈ってあるところを途中まで歩きましたが凸凹があり、引き返し登山口付近まで戻りました。今度は道路に沿って地図上に小さい沼のマーク目指して、大分方面に歩きました。踏み跡は途中で消えてススキの原は意外に歩きにくいものでした。

次に、雨天のときのコースの候補として、湯平温泉を下見に行きました。距離があり途中の道路は豪雨災害の復旧工事があっていました。温泉街にはいると人気がなく時間が止まったような感じでした。湯平温泉駅ではフーテンの寅さん撮影時の写真展があっていました。雨の時は、湯布院の美術館まわりの方を薦めることにしました。

湯布院に帰って、湯布院散策のＡコースの下見をしました。

下見のメインは総会・懇親会・宿泊場所の由布院倶楽部です。
総会の会議場で 60 周年記念談話のときの PC・プロジェクターをセッテイングし、問題ないことを確認しました。加藤さんも大分から参加していただきました。

全国旅行支援の割引の手続きについて確認。その中で、事前に割引対象者の人数を把握する必要があることをホテル担当者から聞きました。このため、本部経由で各支部にメールで旅行支援に関する案内を送り、返事をもらうことにしました。

また、天気がよければ、集合写真は２階屋上の旧テニスコート側で由布岳バックに撮ることを提案されました。とても雄大な眺めで皆この提案に賛成しました。このため、集合写真は総会の議事の前に、明るいうちに撮ることにしました。

宴会場の下見では、コロナ対策のため、向い合せの席のテーブルの間に透明の仕切りを入れていただくことにしました。

OB 総会準備会

８月20日（土）　参加者９名：永沼、秋山、武富、木下、権藤、堀、前田、天野、龍
９月１０日（土）　参加者５名：永沼、権藤、堀、前田、龍
９月２４日（土）　参加者９名：永沼、秋山、武富、木下、山本、権藤、堀、天野、龍
１０月　８日（土）　参加者６名：永沼、武富、木下、堀、天野、龍
１０月１５日（土）　参加者９名：永沼、武富、木下、山本、権藤、堀、前田、天野、龍

コロナ禍の中で一番お世話になったのは、ZOOM によるオンラインミーティングでした。移動して集まる必要がなくとても良いツールでした。先輩方も積極的に参加していただき、ありがたかったです。無料のアカウントなので 40 分で切れるため、30 分経過するとあと 10 分で切れますと警告が出て、一旦終了し再度入りなおすということが何度もありました。

最後に、下見に参加いただいた方、オンラインミーティングに参加していただいた方、九州支部の皆さんに感謝いたします。有難うございました。

12 月３日（土）OB 総会打ち上げ兼忘年会（予定）　　場所：博多つつじ庵

支部活動報告

山口支部　支部長　坂田信一

2020、21 年とコロナ禍で活動を休止していた支部活動を再開しました。多くのイベントを企画できればいいなあと思っています。22 年の活動を報告します。

2022 年 10 月８日　山口市秋穂「亀尾山（大海山）」登山」

出席者　４名　三國（S55 工）、坂田（S57 理）、平野（S59 経）、川地（H26 農）
場所　山口市　秋穂　亀尾山～勘十郎岳縦走

山口県の秋穂は石材の産地で花崗岩が広く分布しています。今回、登った「亀尾山」、「勘十郎岳」も花崗岩からなる山です。ですから、大きな岩を巻きながら山頂に上がったり、露出した花崗岩の上に立ったりしながら、眼下に広がる瀬戸内海の景色を楽しんできました。今回、平成卒の川地さんが参加してくれたことはOB 会にとって画期的でした。

登山口で記念撮影して登り始めました。始めは比較的緩やかでしたが、稜線にでる手前では岩の露出した急斜面を汗かきながら登りました。きつくなってきたと思う頃に、いい塩梅で稜線に到着し、平たい花崗岩の上で記念撮影しました。その後、歩きやすい稜線をたどって亀尾山に到着。山頂でお菓子を食べ、ゆっくりした後、出発。切り立った岩に上ったり下ったりして勘十郎岳に到着し記念撮影。ここから、一気に下って出発したキャンプ場に到着しました。キャンプ場でお湯を沸かして、カップヌードルを食べて、解散しました。

登山前の記念写真

低い山ですが、コースも眺めもいい感じで、年配から子供の山ガール＆ボーイが多く登る人気スポットでした。スマホのＧＰＳの記録から読み取った当日の行動は下の通り。３００mを上がるのに１時間程度です。みんなまだ若いと言っていいでしょう。（軽いリュックだけですが。）

海眺台場（後ろの風景に注目）

９：30　千坊川砂防公園キャンプ場出発、高度 40m
10：00　尾根到着（海眺台場にて写真撮影）、高度 185m
10：30　亀尾山（大海山）到着、高度 324m
11：00　出発
11：30　勘十郎岳東峰
12：30　キャンプ場に到着
13：30　解散

勘十郎岳東峰から、瀬戸内海を眺める平野と川地。中央付近の山が亀尾山

2022年11月20日　萩、菊が浜BBQ（海の家）

出席者　６名　熊谷（S45工）、田村（S53工）、三國（S55工）、坂田（S57理）、日野（S58経）、平野（S59経）
場所　萩市　菊が浜（海の家）

　寒くなる前に、みんなで食事をしながら話したいと思い、萩の海の家を使わせてもらってBBQを行いました。今回はS45卒の熊谷さんが参加してくれたことは大きな収穫でした。当日、萩付近の阿武川ダム付近では紅葉の真っ盛りとなっていましたので日野さんは立ち寄ってから来ました。三國さんは早く来てキス釣りをしました。熊谷さんからは猪肉、平野さんからは徳地のシイタケ栽培農家まで行って買ってきたという巨大な生シイタケ、三國さんからはお手製の燻製、田村さんからはお勧めの萩のパン等を提供して頂きました。それらに加え、萩近海のサザエ、萩牛の肉等を日野さん、平野さんが手際よく焼いてくれ美味しくいただきました。「熊谷さんの昔のワンゲルの話」や「現役との交流会がやれるといいね」とか話しながら、楽しい時間を過ごすことができました。

4. OB 総会報告

２０２２年ＹＵＷＶ「OB 総会 in 湯布院」を終えて

九州支部　事務局長　天野雅紀（S61 経済学部）

　コロナ禍による２回の延期を経て、３年ぶりのＯＢ総会は全国でも有名な温泉地「湯布院」での開催となりました。コロナ感染状況の心配もありましたが、５７名もの方々に参加頂き無事に開催できました。直前に全国旅行支援も始まり、気持ち的にも自粛していた旅行ができる良いタイミングだったと思います。「湯布院」は過去に由布院町と湯平村が合併し、両者の文字を取り入れて「湯布院町」が誕生したことが由来です。その後他自治体とも合併し、現在は「由布市湯布院町」となっています。

開催場所の「由布院倶楽部」は、ＪＲ湯布院駅および駅前のバスセンターから徒歩５分程度、高速湯布院ＩＣからも１０分程度とアクセスしやすく、湯布院観光の宿としては絶好の場所でした。また、由布岳がきれいに望めるので、当日の天気が崩れないことを祈っていました。
そんな祈りや皆さんの気持ちが届いて、開催日の１０月２２日（土）・２３日（日）は、両日共に“快晴”となり、本当に気持ちの良い秋日和となりました。

２２日（土）の午後は、２０名ほどの方々がオプションＡコース：湯布院散策。ゆっくり、のんびりと散策できたのではないでしょうか。その後夕方から記念撮影・総会・懇親会と続くスケジュール。
記念撮影は宿の２階屋上で、夕日に映える由布岳をバックに最高の写真が撮れました。
総会では議事の後に、創部３代目主将の加藤さんから創部６０周年記念談話をして頂きました。創部期の貴重な写真や資料を使用した談話で、大変興味深いお話でした。

そして懇親会、久しぶりにお会いした皆さん楽しそうに会話が弾んでいました。懇親会に差入を頂きました方々、この場を借りてお礼申し上げます。ありがとうございました。
懇親会では以下の方々がご登壇。

歓迎の挨拶：九州支部　支部長　龍さん（Ｓ５０年卒）
乾　杯：九州支部　本園さん（Ｓ５０年卒）
活動報告
　本　部：OB会　会長　田村さん（Ｓ５３年卒）
　東京支部：支部長　城戸さん（Ｓ４９年卒）
　関西支部：支部長　池田さん（Ｓ５１年卒）
　現　役：仲村渠（なかんだかり）さん（副主将）
中締め『博多手一本』：九州支部　武富さん（Ｓ４５年卒）

コロナ感染予防のため２次会会場は設定せず、皆さん各々の部屋で語らって頂きました。

２３日（日）は４つのオプションコースを用意して希望者が参加。
　Ｂ：飯盛（いもり）ヶ城登山、Ｃ：由布岳山麓ハイキング、Ｄ：鶴見岳ハイキング、Ｅ：由布岳東峰登山
私も飯盛ヶ城登山と由布岳山麓ハイキングの起点「由布岳登山口」まで車で荷物を運びましたが、山頂まできれいに見渡せる快晴。他コースに参加された皆さんも、爽やかな登山だったでしょう。
　皆さんが異口同音に「開催できてよかった」「楽しかった」と喜んで頂いたことが嬉しかったです。
本当に開催出来てよかったと思います。参加頂いた方々、欠席ですがはがきを返信頂いた方々、本部や九州支部の皆さん、本当にありがとうございました。感謝いたします。

由布岳をバックに集合写真

総会の様子

功労者表彰（永沼嗣朗さん）

功労者表彰（武富敏夫さん）

功労者表彰（古谷眞之助さん）

創部 60 周年記念談話
（加藤征治さん）

懇親会の様子

Ａコース：湯布院散策

Ｂコース：飯盛ヶ城登山

Ｃコース：由布岳山麓ハイキング

Ｄコース：鶴見岳ハイキング

Ｅコース：由布岳東峰登山

OB 総会出席・由布岳登頂

東京支部　惠谷　浩　(S47 文理学部)

OB 総会が湯の町・大分県由布市湯布院町川上で開催され出席した。また、紅葉・黄葉が始まりかけている由布岳の東峰 1580m に登頂した。筆者にとって、由布院を訪れるのは初めてのことである。

10 月 22 日（土）東京駅発 9:09 の新幹線で小倉駅。14:09 発の特急ソニックで別府駅。15:35 発の亀の井バスで、16:27 由布院駅前バスセンター着。徒歩 5 分で総会会場の由布院倶楽部。受付で出席手続きをしたが、遅くなっているので温泉入浴の間もなく、夕方の由布岳を背にして出席者 51 名の記念写真撮影があった。17:20 より総会があり、開会の言葉・物故者への黙祷・会長挨拶などがあり、18:30 より懇親会。筆者の同級生は 5 名が出席。出席する者はほぼ固定化しており、現在の生活や懐かしい現役時代の話で盛り上がった。筆者と同級生の真田さんが明日のオプションコース由布岳東峰登山は容易なようなので一緒に登りましょうと熱心に誘ってくれた。しかし、このコースでは 6 時間で登頂・下山となっており、筆者が地図などを調べて作成した登山計画では到底むり。私は個人で登る予定だと断った。筆者はビールと日本酒を思う存分に飲んだ後、湯量豊富な掛け流し温泉につかり汗を流し午後 10 時に就寝。

【湯布院町から由布岳を望む】

10 月 23 日（日）今日の宿泊を予約している民宿・ペンション木綿恋記に行き、リュックサックを預け、サブザックに昼食用パンとペットボトル水、上着、雨カッパ、ヘッドランプなどを入れて、由布院駅前バスセンターへ。始発バス 6:56 に乗り、7:11 由布岳登山口・標高 770m に着。登山届を出した。雲が由布岳の山頂辺りを覆っている。草原をしばらく進むと、穏やかに上る広葉樹林帯となり、所々に紅葉・黄葉が見られる。時々、上る人に追い抜かれながら、8:30 合野越。松や灌木が生えるジグザグ道を上ると、ミヤマキリシマやススキが茂り、展望の良い場所もある。この頃になると多くの人達が追い越すばかりでなく、下山してくる。岩がゴロゴロの急坂となり、ジグザグに上る。由布岳の山頂方面の雲が薄くなり、期待が膨らむ。計画どうりの時刻、10:50 マタエ（東峰と西峰の分岐点）。

【マタエより由布岳西峰を見上げる】

岩が連なり、杖が使えない場所が多くなる。11:35 山頂直前の岩場急登で筆者よりも約 1 時間遅く登山口を出発したオプションコース東峰登山の人達、女性 3 名・男性 6 名が追いついて来た。びっくり仰天、その中に真田さん。9 名中最年長で 5 年位前だったかに胃ガンで胃の 3 分の 2 を切除している。杖なしで、疲れもみせず、笑いながら元気いっぱい。11:40 遂に感動の由布岳東峰 1580m 山頂。皆さんと一緒に登頂記念写真を撮影。皆さんはすぐに休憩・昼食。真田さんは途中にトイレが無いので、粗相があってはならずと昼食は少量、水もほとんど飲まずとのこと。筆者はまず、360°の絶景を堪能。九重山、祖母山、阿蘇山などが見え、天候がよければ英彦山、長崎県の雲仙岳まで見渡せ、四国の山々を見ることが出来るという。筆者が昼食を始める頃に、皆さん早くも下山開始。

【由布岳登頂記念/筆者は山頂標識の左、標識の前が真田さん】

計画どうりの 12:15 下山開始、13:05 マタエ。計画では出来れば西峰 1583m へ登るとしていたが、クサリ場の厳しそうな様子を見て、79 歳という高齢の筆者は断念した。時間に余裕ができ、午後は上りとまた違う光景を眺めながら、ゆっくり下った。16:50 由布岳登山口。バスに乗り、由布院駅前バスセンターへ。コンビニで弁当と缶ビールを買って、ペンション木綿恋記へ。木綿恋記は老夫婦が素泊者のみを客としている。湯量が非常に多い掛け流し温泉につかり、今日の疲れを癒す。自室で、由布岳登頂を祝し乾杯して夕食。

【別府湾（中央）と鶴見岳（左）、高崎山（右）】

10 月 24 日（月）自宅に帰るだけなので朝寝をし、温泉入浴。持参のパンで朝食。往路と同じ経路で帰宅。

5．同期会だより

54 同期会　夏の北アルプス 2022

東京支部　濱野 宏（S54 文理学部）

２年ぶり４回目の 54 同期会を幹事東京チームで行った。
日程：７月 24 日午後集合～25 日登山・観光～26 日午前解散
場所：登山組は唐松岳へ、観光組は五竜の高山植物園へ
宿泊：白馬・八方温泉の宿「丸家」
参加：桑江、小泉、池田、田中、柳楽、幹事）足立、濱野の７名
企画準備：１年前より山域の絞り込み、宿の調査および日程について東京チーム４名が新橋に集まり検討会を行った。残念ながら、木下、深田の両氏は諸事情により不参加となった。白馬方面を候補として、２泊３日でアクセスが良くリーズナブルな料金設定の宿から、白馬・八方温泉を拠点にゴンドラを使っての唐松岳日帰り登山に決定した。

本番直前に思わぬことが起こってしまった。３日前になって、予約していた宿の女将さんからクローズになったことを知らされた。従業員がコロナに罹り、女将さんたちが濃厚接触者となり検査結果待ちだと。八ヶ岳縦走を終えて茅野駅でまったりしていたところにこの電話だった。「えーどうしよう？」「今、近くの旅館を当たっているので少しお待ちください！」結果、白馬駅から徒歩 15 分の「丸家」さんにお世話になることに。やれやれ。

東京方面からは特急あずさが白馬駅までいくので便利である。何十年かぶりの白馬駅に降り立ち、途中の好日山荘に立ち寄り宿に向かった。天気も良く唐松から五竜にかけて展望が開け、左手前方にオリンピックジャンプ台が見える。ご主人と女将さんに挨拶し、足立くんを迎えに白馬駅にＵターン。夕方までに全員が揃ったので、散歩がてら八方ゴンドラリフト券の事前購入と買い出しに出た。地元の食材が中心の手作り料理と温泉に癒やされ２年ぶりの再会で話しが盛り上がる盛り上がる。

よく晴れた翌朝、登山組は６時半に出発。７時にゴンドラに乗り込む。リフトを繋いで、八方池山荘からいよいよスタート。お花畑がきれいでシャッターが止まらない。　　ところが八方池をすぎたころから、Ｋさんの足取りが重い。故障上がりで体調が戻ってなかったみたい。丸山ケルン手前で、Ｋさんと分かれて唐松岳を目指す。唐松山荘を横切り、唐松岳へ向かって俄然ペースアップ、ガレ場を登り切ると山頂に到着。360 度の視界良好な展望を楽しんだあと、唐松山荘分岐まで戻りお弁当を食べていると「Hello！」とどこかで聞いた声が。Ｋさんが無事登ってきたじゃないか。預かったお茶をちゃんと山頂まで運んだからね。なんて談笑しつつみんなで写真をパチリ！下りでは、雪渓を歩いて北アルプスらしさを堪能した。
ゴンドラを下りてみんなで食べたかき氷は最高！　観光組２人は、バスで五竜高山植物園に向かい、コマクサの群生や鮮やかなニッコウキスゲなどを楽しんできた。
次回の同期会は、２年後。東京チームが幹事だ。どの山域になるかお楽しみに！！

日本三百名山　唐松岳

雪渓を楽しむメッチェンたち

八方池から唐松岳方面を望む

左から、柳楽、池田、田中、桑江、足立、村田、濱野

昭和 60 年度卒部　同期会を開きました

齊藤　昌彦（S60 農学部）

コロナが収まっていることもあり、昭和 60 年度卒部の 20 名のうち、7 名が山口で同期会を開きました。定年退職を控えた木村君の呼びかけに西田君が応えて、同期に声をかけて実現した会です。卒部後、しばらく同期で集まる機会もありましたが、その後、仕事や家庭のことで縁遠くなっていた仲間と数十年ぶりに会う機会となりました。

当日、今回の呼びかけ人である木村君は、広島から。仁保君が福岡から。一番遠くは、神奈川から田中君。山口県内は、下関から岸君。山口市から、西田君、宮本君、齊藤でした。

数十年ぶりの再会になった仲間も多かったですが、四年間の濃いワンゲル生活が蘇り、昨日のことは忘れていても、40 年近くも前の思い出は鮮明に思い出せることに驚きと喜びを感じた時間を過ごすことが出来ました。そして、当時は聞けなかった、それぞれの裏話を聞けて、すっかり気分は大学生に戻っていました。

今回は、7 名の参加でしたが、残りのメンバーの連絡先を西田君が整理してくれ、これからも連絡を取り合うことになりました。それぞれ、残りの人生が少なくなる中でこのつながりを深めていければと思います。

同期会の中では、次回は福岡での再会を企画しようと盛り上がりました。コロナも第８波が懸念されていますが、また、みんなと同期会で再会できることを楽しみにしています。

6．エッセイ

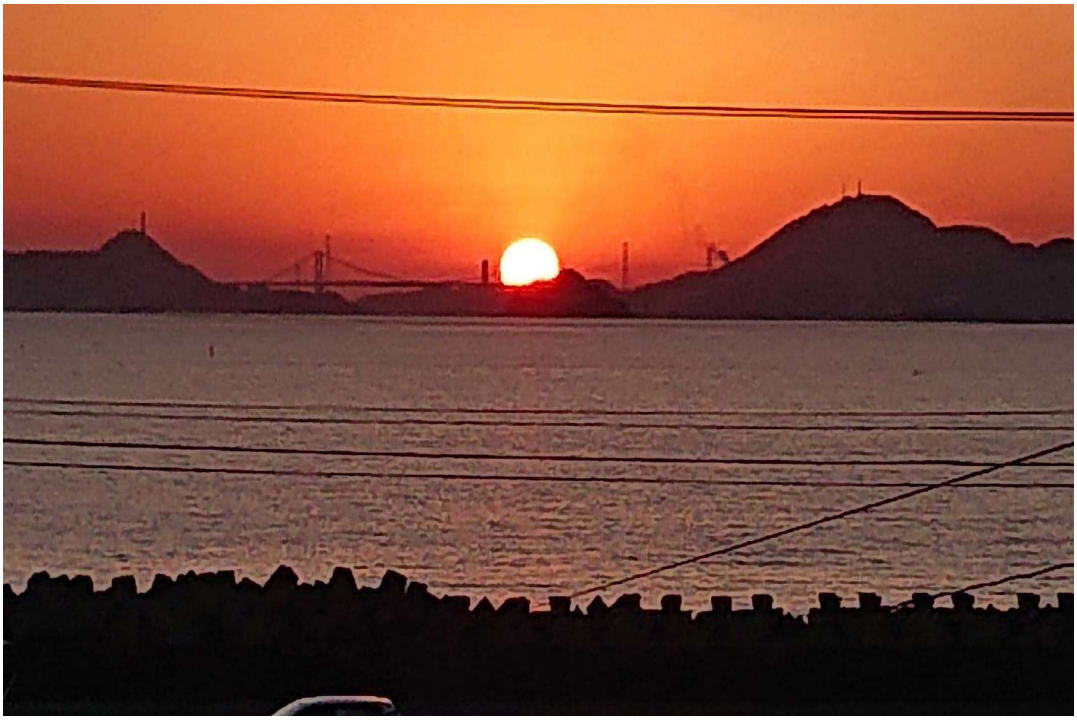
関門海峡に想う

九州支部　前田　孝志　(S59 経済学部)

「祇園精舎の鐘の声、諸行無常の響きあり・・・」あまりにも有名な平家物語の序文です。新型コロナウイルスの影響で気ままに過ごす時間が増えたこともあって、いつかは読んでみたいと思っていた「新平家物語」（吉川英治著）を読破しました。人の世の儚さ、栄枯盛衰を十分すぎるほど感じさせる小説でした。
物語のクライマックスの一つである「壇ノ浦の巻」の舞台は今の関門海峡です。歴史の授業では平安期の一事象として教わりましたが、物語を読むと身近な地域・土地でそんなことが起きていたんだと、改めて感じました。

関門海峡は、山口県下関市と福岡県北九州市門司区の間の幅 600 メートルの海峡です。江戸時代初期には、剣豪宮本武蔵と佐々木小次郎が決闘をした「巌流島」が関門海峡のはざまに浮かんでいます。島の正式名は「船島」ですが、何時の時からか敗者の小次郎の別名「巌流」の名がつくようになりました。
また、幕末には、長州藩が四か国連合国に対し攘夷を決行し戦いを挑んだ結果、ボロボロにやられ、急転西洋の軍式を取り入れ、その後の第二次長州征伐（山口県ではこの戦いを四境戦争と呼ぶ）では、海峡を挟んだ小倉口の戦いで高杉晋作率いる長州軍が政府軍を打ち負かしたのもこの場所です。
さらに、日清戦争の講和条約が行われたのが、源平合戦で敗れて平家の人々とともに海に身を投げた安徳天皇を祀る赤間神宮に隣接する春帆楼であったのも何か歴史の面白さを感じさせます。

私の実家（山口県山陽小野田市津布田）からはその関門海峡を眺めることができます。九州側の貫山、足立山から関門橋、満珠（マンジュ）島を手前に臨み下関の火の山の眺めは、日本広しといえこの付近だけだと思います。小学生の頃、遠くに見える関門海峡に橋梁が立ち、両岸から橋が伸びて繋がっていく光景を懐かしく感じます。その関門橋に冬至の頃には夕日が沈んでいきます。こんなに素晴らしい眺めが生家から望めるとは、還暦になって改めて驚くとともに自分の故郷が誇らしくも思えました。



旅　　鉄

関西支部　池田　純（S５１　工学部）

入部した同期に山行もですが旅が好きで入部した私、特に昨今体力が落ちたこともあり山行よりも鉄道旅のほうが多くなった。毎年総会が開かれるがただ参加するも面白くなく毎回いろんな手段で参加してます。九州での総会前回は、船（フェリー）で参加したが今回鉄道にした。この時期鉄の日（10 月 14日）に合わせて乗り放題切符が発売されるのでこれを利用することにした。7850 円で 3 日間普通列車が乗り放題になり俗に秋の青春 18 きっぷともいわれている。1 日目を移動に使いビジネスホテルに泊まっても新幹線と比べても充分安い。以下その顛末を報告します。

1 日目 BS の朝ドラを見終わって 7 時 57 分最寄りの駅（甲南駅）を出発。草津で快速に乗り換え南草津で新快速に乗り換える。ここの新快速は韋駄天で有名で 130 ㎞ぐらいで飛ばす。距離も長いのは福井の敦賀から兵庫の赤穂や上郷まで走る便もある。10 時半ごろ姫路到着駅そばを食べる。ここのそばは麺が中華そばみたいで白い。ここの駅そばは名物で変わった味だがおいしい。ここで赤穂行に乗る。このまま赤穂線で行こうかと迷ったが相生で山陽本線倉敷経由新見行に乗り換え岡山でさらに糸崎行に乗り換える。学生時代小郡（今の新山口）から広島方面の電車は糸崎行が多く糸崎の名前を見ると来たなと思う。糸崎は尾道の次の駅で 30 分ぐらい待ち合わせがあったので外へ出たが、駅周りの商店はとっくに廃業しておりさみしい限り。ここで岩国行に乗る。酒どころの西条から難所の八本松、瀬野までは勾配やカーブが続く山陽本線の難所で見どころが多い。学生時代はこの区間は夜行ばかりで難所であることは体感できても景色を見ることはかなわなかったので、また一つ目的を果たした。電車は岩国まで行くが山口県内は各停の評定速度が遅く乗りつぶしも終了してるので、広島で新幹線に乗り換え小倉へ（これをマニアはワープという）

２日目　小倉駅７時 26 分発の日田彦山線添田行に乗る。やってきたのは写真のディーゼルカーでたぶん 40 系、古い国鉄時代の車両である。ＪＲ西もそうだがＪＲ九州も古い車両を大事に使っているようだ。日田彦山線は歴史が古く駅舎や路線に重みを感じる。遠くの山並みを見るととんがっていたり頂上がフラットだったりで異形である。ここが石灰石の産地で人の手で削られたのだろう。滋賀の伊吹山の山麓を思い出す。この路線は 2017 年の水害で添田まででそこから先は代行バスになる。添田の駅では待ち時間があったので展示されている映画ロケの写真や、門鉄デフ（九州地方独特の煙除けであるデフレクター付き蒸気機関車）をライブスチーム（本物と同じように蒸気で走行する模型）を眺めていたが出発時間が近づいてもバスの姿が見えない。バスは遠くの駐車場で待機していた。小走りで乗車する。これを逃すと２時間半待たねばならぬ。バスは満席であったが、途中の彦山でほとんどの人が降りてしまい残りの人はわずかで、途中の夜明駅でさらに人が降り終点までは２名であった。終点の日田からは、普通列車がほとんどなくやむを得ず特急「ゆふいんの森」に乗った。1 号にも乗れたが昼食をとるため切符は 1 時間後の 3 号をとったがこれは失敗であった。日田の駅前で昼食とビールを飲んで乗車。このご時世にも関わらず満席で私の席のみポツンと空いていた。車両はハイデッカーで天井が低いため席に座るときしこたま頭を打った。となりのおじさん曰くこの列車は乗車中飲み食いをしなければならないとのこと。確かに周りの人は立ったり座ったりでビールや容器に入った焼肉なんかのごちそうをラウンジから持ってきて対応するアテンダントもいる。私は日田でたらふく食ったのでしまったと思った。突然駅でもないのに列車は減速なにかなと思っていると右側に雄大な滝が見えた。慈恩の滝とのこと列車はそのほか切り株山でも減速し景色をたっぷり見せてくれた。由布院の駅に近づくと近くの売店の娘さんが盛んに手を振ってくれるのが見えなかなかよろしい。

3日目　総会の翌日である。本当は朝の散歩コースに参加する予定でしたが列車の便が少ないので幹事に断りを入れて由布院発 8 時 40 分の大分行きに乗る。大分駅はいつのまにか高架になっておりりっぱである。ここで中津駅行に乗るが田舎なのにロングシートの電車なのでがっかり。別府ではラクテンチの看板を山の中腹に発見ここは小学校の修学旅行や、親にも連れてきてもらった思い出深い場所今でもあることに感激。日豊本線は古い木造の駅が多く感心する。古い駅舎を見ると半世紀前３回生の春合宿でこの辺を訪れたがその時の思い出が一瞬でよみがえる。日豊本線は平行して新幹線がなく在来線特急が多い。そのため各停に乗ると特急退避が多く時間がかかってしょうがない。小倉に着いたらお昼過ぎで結局播州赤穂でもう一泊する羽目になったが、よき旅であった。

車　窓　よ　り

関西支部　上田　功（S48　経済学部）

去る１１月１２日（土）、鳳陽会の用事で京都に出かけた。場所は、JR 京都駅に近接している都ホテル京都八条。時間は１２時３０分から１５時までの案内で、フリードリンク付き懇親会の会費は１万円。コロナ禍での外出自粛要請等で京都方面へはなかなか足を運べていなかったので、令和元年１１月以来、実に３年振りの京都であった。私の暮らしている神戸から京都へ向かうには、最寄りの JR 垂水駅から神戸か三宮まで普通電車か快速電車を利用し、そこから新快速電車に乗り換えるのが便利であり一般的だ。目的地が嵐山方面とか四条界隈の時には、三宮から阪急を利用することもある。

この日は、垂水から９時４２分発快速野洲行きに乗車し、海側・窓側の席にゆったりと座ることができた。会合に遅れないよう家を早目に出て時間に余裕があったことと神戸か三宮で新快速に乗り換えても座れなかったらしんどいことから、そのまま快速に乗り続けることにした。

まわりの殆どの乗客は、スマホを眺めるか画面に向かって指をせわしなく動かしていたが、私が列車内でスマホを手に持って何かをすることは先ずない。車窓に目をやり、流れるように変化していく景色をのんびりと眺めていることが多く、この日もそうしていた。

三宮を出て直ぐに、高槻までの停車駅と高槻から先は終点野洲まで各駅に停まります、と車内アナウンスがあった。大阪までの神戸線は出かける回数が減ったとは言えこの間もたまに利用していた一方、大阪から先の京都線の利用は上述の通り３年振りだったので、高槻から先は快速が普通になるとの案内に、ホーッ！そんなことになったのか、初めて知ったなあ・・・、と思わず耳を傾けた。

ところで、現役の時分の大阪／京都間の乗車を振り返ってみると、東京／神戸間の新幹線利用時の通過区間に含まれていたケースが大半で、たまに京都線を利用する時も新快速を選んでいたので、新快速が飛ばして行く途中の駅を逐一意識することはあまりなかった。

この日の高槻の次の停車駅は島本、でここまでが大阪府だ。そう言えば、何年か前に（８年前）ポンポン山に登った時の帰りが確かこの駅からだったなあ・・・、この町に住んでいる従姉が母方の祖父母の墓を田舎からこちらに移しているので一度お墓参りと思いながら未だ行けてないなあ・・・、と島本に停まったことからであろう、島本にまつわるあれこれが島本停車中に思い起こされた。

島本からは、私にとって初めての山崎、長岡京、向日町、桂川、西大路、と停まり続け、高槻までのどこかの駅で車両確認に時間がかかった為、ダイヤより２２分遅れて１１時３８分に京都に到着。

会合は定刻に始まり異議なく終了。続く懇親会はホテルから差し入れられたシャンパンでの乾杯に始まり、ウェイターにサーブされる洋食メニューに合わせて、私の飲み物は白ワインから赤ワインへと進んだ。総勢１５名の出席者の最高齢者は大学５期卒の私より１６期上の大先輩で、今年めでたく米寿を迎えられた由。耳がやや遠いことを除けば極めて矍鑠としておられ、私を始め出席の皆がこの大先輩にあやかりたいと心底願っていたに違いない。

京都からの帰途は、15 時３０分発新快速に乗車。京都を出ると直ぐにポッコリとした愛宕山の山頂部が見えてくる。前回登ったのはいつ（令和元年５月）だったかなあ・・・、とか色んなことを思っている内に、５０分程で三宮へ、普通に乗り換えて垂水からバスで１７時３０分頃無事家に着いた。

帰宅後、この日の小さな旅には、何故か、この国の政治の有り様への示唆が凝縮されていたように感じられた。それは、新幹線や新快速のように利便性や効率性を求めることは無論大事だが、それらばかりを追求していくとそうしたことの果実に預かれない地域や人々はどうなるのか、という視点だ。

全国に新幹線網が整備されることは勿論良いことであろうが、その沿線以外のことが実は忘れられていないか。新幹線の補足手段が新快速、その補足手段が快速か普通であるが、これらはいずれも新幹線沿線の都市部についてのみ言えることだ。

新幹線沿線の都市部以外の普通しか走っていない地域とそこに住む人々はこれからどうなっていくのか。普通も走らなくなる地域とそこに住む人々はこれからどうなっていくのか。元々普通も走っていなかった地域とそこに住む人々はこれからどうなっていくのか。

だからと言って、特別に私に何かができる訳ではないが、思ったり考えてみたりするだけでもまだマシであろうと勝手に御託を並べながら、これからも列車の旅を続けたいと願っている。

フランスドライブ旅行

東京支部　秋山高弘（S53　経済）

家内と二人、海外ドライブ旅行を楽しんできた。初めてドライブしたのはイギリス（右ハンドル+左車線で日本と同じ）で、エジンバラからスコットランド地方を回ったのだが、そこで何とかなりそうな自信をつけ、次に行ったフランスのブルゴーニュ地方でもレンタカーを借りて、この時は家族全員で小旅行を楽しんだのがドライブ旅行の始まりであった。

イギリスは道路が狭いのに、皆飛ばす人が多く少し怖い思いをしたのに対し、フランスの道は総じて幅広く、車も少ない印象（あくまでも田舎では）である。それ以来、ボルドーからアキテーヌ地方、マルセイユからプロバンス・コートダジュール地方、ナントからブルターニュ地方、リヨンからローヌ・アルプ地方（足を延ばしてスイス・レマン湖畔）、バスク地方（初めてスペインに乗入れ）とドライブ旅行を楽しんで来た。

ドライブ旅行の良いところは、レンタカーを借りて泊まるホテルを予約したら、あとは気の向くままに次のホテルのある街に向かって走るだけでいいことである。電車やバスの時刻を調べたり予約したり、時間を気にしたりの面倒な手間が全て省略できる。いつもホテルで朝食を摂りながら、今日はどの道で行こうか地図を出して家内と相談する。できるだけ田舎の道、海岸沿いの道、景色の良さそうな道を選んで走ることにしている。そしてそうした素晴らしい景色に出会ったら、必ず車を止めてゆっくりと楽しむのが醍醐味である。ガイドブックを見れば、色々立ち寄るところを書いてはあるのだろうが、そんなものは無視して、たまたま出会った景色やお祭りやバザー、ひっそりとした中世の街並みなどに感動するのが一番楽しい。

以下、少しドライブ旅行をしてきて気の付いた点を書いておこう。

1. ヨーロッパでは大型高級車を除いて、オートマチック車がほとんどない。皆さんは左ハンドル右車線に気を取られながら、慣れないクラッチ、そして右手でギアを操作できますか？　と言うことでオートマチック車の小型車を置いているレンタカー会社・営業所を探すのが一苦労となってくる。
   （中世のような古い街並みは道路が狭いことが多く、小型車がお勧め。）
2. 大都市の営業所だと保有台数も多く、小型のオートマチック車は見つけ易いが、そんな都市の駅前や街中で借りようものなら、車の多い街中から郊外へと脱出するだけで冷や汗ものとなる。従って交通機関で田舎へ出て車を借りるのが理想だが、そういう所ではオートマチック車を置いていないことが多い。このあたりの加減がむつかしい。
3. ナビは必ずつけること。時々フランス語でわめく（多分休憩を取れと言ってる）こともあるが、そんなものは無視して結構。とにかく自分の車が今どこにいるのかが地図上で判ることが大事。間違ったら直ぐに元の道に戻れば良い。但しナビゲーション機能は使わない方が良い。大きな道や高速道路ばかり行かせようとする。
   はじめの頃は家内に地図を持たせてナビゲーションさせたのだが、喧嘩しっぱなしの旅だった。「今この街を出てこの道を北に向かって約 10 分走ったよね？せいぜい時速 60 キロなのに、なんで地図のこんな所見てるの？」といった具合で、ワンゲル出身者には理解できないことばかり。
4. 行程はゆとりをもって計画する。イギリスはスピード制限速度 60 マイル（約 100 キロ）なので、それぐらい出せるのだろうと計画したが、路肩が 30 センチもない一般道では、とても怖くてそんな速度を出せない。ところが現地の人たちはビュンビュン飛ばす。あっという間に後ろに数台付かれ、路肩の広いところで先に行かせることの繰り返し。結局その時はコース消化だけで精いっぱいだった。とにかく計画では距離を欲張らないこと。それでこそ思いがけなく出会った素晴らしい景色をゆっくり楽しめるというものだ。それから私たちは昼食を摂らない。向こうの人たちは時間をかけてランチを楽しむので、レストランに入ると時間がかかる。朝食のパンを少し紙ナプキンに包んでおいて、眺めの良いところでつまむぐらいで丁度いい。早めにホテルについて、まずビールを一杯やるのが一番の楽しみだ。
5. 困ったらためらわず周りの人に助けてもらう。例えばガソリンスタンドなどで、どうやって入れたらいいのかわからない、そもそも車の給油キャップの開け方が分からないなど、しょっちゅうトラブルは起こるもの。そんなときのコツはとにかく隣の人に「ヘルプ」などと言いながら寄って行って、その人を引っ張って自分の車に連れてくる。そうすると皆教えてくれて代わりにやってくれる。これはフランスだけでなく、スイス、スペインでも 100%成功してるから、たぶん世界共通で通用するのではないか。

6. しゃべれないと躊躇する必要は全くないが、最近発見した便利グッズは「ポケトーク」。これはすごい。もう日本人は語学勉強しなくてもいいのではないかというぐらい、会話の翻訳機能（外国語⇒日本語、日本語⇒外国語）は優れている。スペインで、「家内は少し疲れているので、コースのお皿ごとの量を少し減らしてくれないか。」と頼んだら見事に翻訳して相手に通じた。フランス領に戻ったらボタンで切り替えるだけでフランス語対応もしてくれる。タクシーの運転手が、「見ろよ、素晴らしい美人だ。（本当はもっと下品）」なんてつぶやいても、直ちに翻訳してくれるからおかしい。

さて、コロナが明けたらもう一度行きたいなと考えている。今度はスペインを回ってみようか、それとも今まで行ったフランスの中で気に入った所を再訪しようか。夏から秋辺りで行ければいいのだが。
（以上勤務先の社内報に載せた文章を、少しリメイクしました）

以上

（写真は、バスク地方。海に突き出た教会、ザビエルの生まれた城、ピレネー越えの巡礼路）

全行程を歩く古式富士登山旅日記

東京支部　惠谷　浩　(S47 文理学部)

60 歳定年退職の 1 年後の 2004 年から毎年続けた富士山登山が新型コロナウイルス禍のため、16 回目で途絶えた。2021 年コロナウイルス禍は続いているが、富士登山は解禁された。そこで、これまでのように五合目までバスに乗ることを止め、海抜 0m から全行程を歩いて富士山に登った。

2021 年 8 月 26 日(木)晴時々曇り、最高温度 32℃：まず、2013 年に世界文化遺産となった富士山の構成資産の三保の松原に行き、富士山を仰ぎ見ることにした。12:00 過ぎに推定樹齢 200 年の羽衣の松から三保の松原に出ると、松林の緑、打ち寄せる白波、海の青さと富士山が圧巻。歌川広重の浮世絵でも有名。飲食店はビール禁止。缶ビール 350mℓを買い、宿泊のココチ沼津の自室で乾杯・夕食。

【海抜 0m 海水浴場】

8 月 27 日(金)晴、最高温度 33℃、歩約 15km：千本浜海水浴場へ。約 7kg のリュックを背に、海抜 0m から全行程を歩いて富士山山頂へ向けて出発。JR 御殿場線沿いの旧国道を歩き、裾野セントラルホテルに。夕食にビールは禁止。缶ビール 305mℓと缶酎ハイを自室で飲んだ。昼の暑さで飲まずにおれなかった。

8 月 28 日(土)晴、最高温度 34℃、歩約 17km：暑くて、ペットボトルの水を頭、首、両腕にかけながら、進む。道路沿いに神社が多い。ホテルルートイン御殿場駅南に着。飲食店はやはりビールなし。コンビニで寿司・野菜サラダと缶ビール 350mℓ2 本を買い、ホテルの自室で夕食。

【富士浅間神社本殿】

8 月 29 日(日)早朝晴後曇、最高温度 32℃、歩約 10km：7:30 ホテルを出発。13:16 鎌倉往還の道を見る。15:00 過ぎに、延暦 21 年（802 年）の富士山東脚の噴火から、大同 2 年（807 年）に造営されたという富士浅間神社に参拝した。旅館扇屋に宿泊。宿泊者は筆者のみで、初めて大浴場につかった。何故か瓶ビールもよし。この度の旅で初めての和食とビールに疲れも吹っ飛んだ。

8 月 30 日(月)曇時々晴、最高温度 34℃：富士浅間神社が富士山 0 合目となっている。7:20 出発。富士山須走口五合目への車道を歩き、9:45 旧一里松。旧登山道の石柱。11:15 一合目・旧馬返。旧登山道らしき所があり、進むと 12:41 馬返し上。13:20 狩休小屋跡。13:28 狩休上。さらに進むが時々、火砕流により出来た谷に出会い、遂に赤布の目印が見当たらなくなってしまう。道らしきものもなくなってしまった。富士山麓の青木ヶ原樹海に迷い込み、死んでしまう話が脳裏をよぎる。学生のときに使っていた磁石があるので、遭難はないだろうが、旧登山道を諦め車道に出ることを決断。地図からして、左に行けば車道。何度も火砕流による深い谷を下り、上りして、14:23 車道に出た。15:16 須走口五合目・1970m に着。計画では新六合目・2420m の長田山荘泊だったが、心身ともにつかれたので、山荘菊屋に泊まることにした。宿泊者は筆者のみ。まず、屋外のテーブル・椅子で焼きそばとジョッキ生ビールで遅い昼食と無事たどり着いたことに一人乾杯。出入口屋外の温度計は 7℃。

8 月 31 日(火)晴後曇・霧：3:50 に起き、持参のパンなどで朝食。ヘッドランプを付け、4:30 出発。入山にあたり、コロナウイルス感染チェックを受けた。6:35 新五合目 2420m・長田山荘。7:25 本六合目 2620m・瀬戸館。9:10 七合目 2920m・太陽館。次第に曇空となり霧が立ち込める。10:15 本七合目 3140m・見晴館。11:00 八合目 3270m・江戸屋。11:50 八合五勺・御来光館。12:35 九合目 3600m。13:40 感動の山頂 3715m・久須志神社に達した。反時計回りにお鉢巡り。霧がひどくなった。15:15 剣ヶ峰 3776m に立った。海抜 0m を出発してから 4 日目、感極まる。持参のパンなどで非常に遅い昼食。16:00 霧の中の剣ヶ峰を後にする。16:25 富士宮ルートを下山開始。さらに雲と霧が立ち込める。17:20 九合五勺・胸突山荘。カレーに何故か缶ビールを飲める。

【富士山剣ヶ峰】【明治 40 年～大正 6 年頃の剣ヶ峰】

9 月 1 日(水)濃霧：パンなどで朝食後、5:05 出発。濃霧の中、5:55 九合目。7:15 八合目。8:30 元祖七合目。一段と霧が濃くなり、風も強くなる。9:50 新七合目。11:34 六合目。12:10 富士宮口五合目 2380m に着。仮設休息所でカップヌードルと缶ビールで昼食・乾杯。15:30 発のバスに乗り、新幹線で東京駅。自宅に帰り、缶ビール 350mℓで夕食・乾杯。

廃れゆく登山道

九州支部　武富(伊藤)敏夫　（S45 経済学部）

オオキツネノカミソリは 7 月下旬～8 月上旬にかけて見ごろを迎えます。和名では「葉の形を剃刀に見立て、花の色を狐に見立てたもの」ですが、狐がついている由来は様々な説があるようです。ヒガンバナと同じように、花の咲くころには葉はなく、茎が伸びて花だけが咲きます。

昨年 7 月下旬、西日本新聞に「八幡岳(唐津市相知町)のオオキツネノカミソリが見ごろを迎えた」との記事が掲載され、見に行くことにしました。九州ではそのほか佐賀県の「多良岳」、福岡県の「井原山」に群生していますが、八幡岳の花は井原山の野河内渓谷とは違って、その群生は比べ物にならない程素晴らしいものです。八幡岳肩から八幡岳峠分岐へと下る斜面全体が群生地です。

昨年は蕨野交流広場～蕨野コース～八幡岳キャンプ場～八幡岳～八幡岳峠～八幡岳キャンプ場～蕨野交流広場と周回し、約 6 時間程度のコースタイムでした。今年は体力や安全面を考慮して八幡岳キャンプ場～八幡岳～八幡岳肩(オオキツネノカミソリ鑑賞)～八幡岳キャンプ場と 2 時間程度の里山の花旅となりました。八幡岳キャンプ場までは車で行くことができ、そこから八幡岳まで簡単に登れます。オオキツネノカミソリだけではなく、山頂からは雲仙普賢岳や唐津湾が望まれ、また、眼下には蕨野の棚田が広がっています。蕨野の棚田は、日本の棚田百選に認定されていて、高さ 8.5m の石積みは、日本一の高さを誇ります。しかし、この棚田も後継者不足で維持管理に苦労しているようです。オオキツネノカミソリ鑑賞とともに、蕨野の棚田を見学すると思い出深い里山の花旅となるでしょう。

最近では、登山開始に楽な場所まで車で行くことが可能になったことから、下の方の登山口から登る人も減少しているようです。そのため登山道が荒れて通行が困難になり、挙句のはては廃道寸前になっていることが見受けられます。昨年の八幡岳山行では、ガイドブックに掲載されている「蕨野コース」を通ったところ、道が荒れており、また八幡岳キャンプ場の手前で登山道が不明瞭になり、引き返し林道へと迂回せざるを得ませんでした。農作業をしている地元の方に道を確認しても、「蕨野コース」を通る人は少なく、道がはっきりしていないとのことでした。

現在、佐賀県では「九州自然歩道」の整備をしているようですが、それは誘導標識や案内板に限られ、登山道の整備まで手が回っていないようです。「蕨野コース」の登山道が不明瞭なことから、昨年８月４日「佐賀県県民環境部有明海再生・自然環境課」へ連絡しましたので、その内容を紹介します。

(**こちらからの連絡**)　「オオキツネノカミソリを鑑賞するため八幡岳に登りました。左の写真は八幡岳キャンプ場に設置している案内板です。八幡岳登山口から蕨野の棚田を経由し、現在地の橙色で示された登山ルートを通りました。テントマーク上小さなため池がありますが、その手前から登山道が消失していたため、引き返し林道から二つある大きなため池の上付近を経由し、車道に出て八幡岳キャンプ場に行きました。

このルートはガイドブックにも掲載され紹介されている登山ルートです。この登山ルートに次の問題点があります。①八幡岳登山口は、車で容易に八幡岳キャンプ場まで行けるためほとんど利用されておらず、この登山ルートには誘導標識がどこにもありません。②前ページの写真の現在地の上のテントマーク上に小さなため池がありますが、そこから登山道が不明となっています。また、林道から入る登山道が、小さなため池まで荒れており不明瞭となっています。

以上のことから、八幡岳登山口から八幡岳キャンプ場までの登山ルートを案内板に表示するのであれば、①登山ルートに誘導標識を整備していただきますようお願いします。②林道から登山道に入って八幡岳キャンプ場までの登山道を整備するようお願いします。

予算やプライオリティの関係から速やかに対応できるとは思いませんが、現地を確認され是非善処していただきますようお願いします。」

(**佐賀県からの回答**) 「九州自然歩道佐賀県ルートの周遊コースについて、ご意見をいただき、まことにありがとうございました。現在佐賀県では九州自然歩道の本線の改修を進めており、総合案内板だけではなく解説板や誘導標識、階段や木橋等の改修を順次行っているところです。また、九州自然歩道を楽しんでいただけるように、九州自然歩道佐賀県ルートの情報サイトの構築を予定しています。

しかし、ご意見をいただいた周遊コースは「分県登山ガイド 40 佐賀県の山」にも記載がなされているように、夏場は雑草が茂り、不明瞭となっている区間が多くなっています。

今後、登山道の在り方について、関係機関などとともに、地域の方々の意見を伺いながら、考えていきたいと思います。情報提供ありがとうございました。」

最近では集中豪雨をはじめ自然災害によって登山道の荒れ方がひどくなっているように思います。福岡県の背振山から佐賀県の蛤岳に向かうルートでも、豪雨により道が切れて 3m くらいの崖ができ、危険な状態になっている箇所がありました。この危険個所については、西日本新聞社が登山雑誌季刊「のぼろ」を発刊していますので、西日本新聞社へ情報提供しました。また、浮石、誘導標識の倒壊などがあった場合にも、関係先へ連絡したこともあります。

登山道は県や市町村、あるいは地域の山岳会、ボランティアの方々によって整備されていると思います。その方々たちに感謝しつつ、これからも年齢に合った体力を考慮し、安全最優先で里山の花旅を継続していきたいものです。

(令和４年 11 月４日作成)

７．近況報告

俳句クラブに入ってしまい

東京支部　福永俊美　（Ｓ４７　工学部）

２０１６年千葉県生涯大学校（老人大学校　６０歳以上）に入学した時に、前年に入学していた友人に誘われて俳句クラブになんとなく入ってしまった。最初の勉強会に参加する前に、「どうだ、自分としては小学校以来の作だがまあまあの出来だろう」と思って家内に句を見てもらった。「あら、季語がないじゃないの」「えつ、季語ってなんだ」「あ～、季語も知らずに俳句クラブに入るの？」　友人に入部取り消しを申し出たが、部員数が少ないのでと慰留されてしまった。この年は熊本大地震があり、宇土市に住んでいた母を千葉に一時避難させたり屋根の修理などで何度か九州を往復した。また不思議な事に父、母から俳句の事は聞いた事が無いのに実家の本棚に歳時記があり、それを片手にまた民法テレビ番組の「プレバト」やNHK「俳句」を見たりして、どうにか１年が過ぎた。

地震あとの瓦礫や四葩健気なり

次の年に退部しようと思っていたら、同期のM君が「２年目は執行部を担当するので、ここで辞めたら敵前逃亡だよ」と言われM君会長、私事務局長として残留することになった。

朝焼けや孤高に染まる槍ヶ岳

３年目こそは辞めようと思っていたら、M君が「新入部員が少なかったから執行部は人数不足であり、我々が残留しなければならない」と言われてしかたなく幹事となった。

火の国の新盆の沙汰母に来る

４，５年目は惰性で居残ってしまった。

豊後かな三万本の秋桜　　赤楽焼薄茶点前をする師走

６年目にはコロナ禍で１年間老人大学校は閉鎖され新入部員も無く、部員数が減少したので、各入部年度より２名が執行部の役目が回って来た。またまたM君が「このメンバーでは我々がやらねば」との発言で、M君事務局長、私幹事となった。

そして今年は会則では７年目は退部なのだが、昨年度も学校は閉鎖だったのでさらなる部員の減少により、特例で居残ることになり、またまた幹事を引き受けることとなった。

我々のクラブの年間予定は２回／月の勉強会、２回／年の吟行、新入生歓迎会、忘年会・会・新年会、句集作成などがあり、私にとって毎月４句作ることが大変な作業だったし、句会での評価はほぼ「才能なし」だが自分なりに良く続けられたと思っている。これはひとえに同期のM君の存在が大きい。彼は陶芸のクラスメイトでもあり、句会や吟行、句集作成作業の後に食事し一杯飲みながら、私の愚痴を聞きなにかにつけて励ましてくれた。

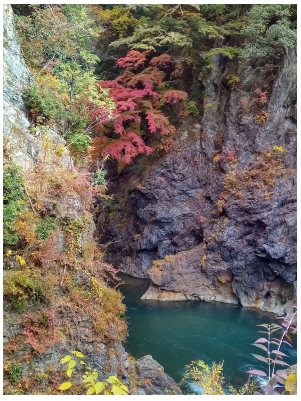
句集作成作業は執行部時２回、幹事で２回担当した。初年度は校正作業など慣れない事ばかりだったが、印刷所が某刑務所でありそこは約３ヶ月ガードマンとしてアルバイトしていた場所であり、とても懐かしかった。

冬の空刑務所明治の赤煉瓦

高校の同期で５０数年前に、一緒にワンゲル部に入部した井上和男君（故人）も新入部員初期に同様に励ましてくれた。そしてクラブ同期、先輩、後輩に恵まれて４年間のクラブ活動が継続出来たので現在私がOB会に所属できている。

ちなみに俳句クラブでの私の俳号は　旅鳥　です。

秋麗の山ワンゲルの部活かな



奥多摩の鳩ノ巣渓谷にて
古生代の奇岩に対峙冬紅葉
2022.11.14

「萩往還ガイド 11 年」

山口支部　古谷眞之助（S52 経済学部）

萩往還とは、江戸時代に長州藩の参勤交代の道として整備されたもので、居城のある日本海側の萩から瀬戸内側の三田尻（防府）まで、中国山地を越えて、ほぼ一直線に伸びる歴史街道である。全長約 12 里、当時の人々は山口で一泊し、二日でこれを歩いた。特に幕末になると、熱い志に燃える藩士たちが京へ、江戸へと向かって幾度となく駆け抜けた「維新街道」でもある。長州の吉田松陰、高杉晋作、久坂玄瑞らだけでなく、土佐の坂本龍馬も歩いている。萩往還には往時を偲ばせる史跡が今も多く残る。一里毎に築かれた道標・一里塚、街道を保護するために敷き詰められた石畳、そして参勤交代時の休憩場所・御駕籠建場、藩主の宿泊施設・御茶屋などである。四季折々、遥か昔に思いを馳せながらの街道歩きは、今再び静かなブームを呼んでいる。

そんな萩往還のガイドについて、以下多分自慢話めいてしまうことを承知で、これまでに行ってきたことを書いてみたい。「萩往還」のガイドを始めて丸 11 年になる私は「やまぐち萩往還語り部の会」に所属しており、これまでに 172 組、2,528 名の方々を案内してきた。特に大河ドラマ「花燃ゆ」が放送された 2015 年には 47 組 808 名をガイドした。そしてこの中には海外からの 11 ヶ国、18 組 135 名の方々も含まれている。2019 年頃からは旅行社を通じて海外からのガイド希望者が徐々に増加し、今後に期待するところ大なるものがあったが、残念なことに 2020 年のコロナ禍で一気に冷え込んでしまった。

ちょうどその頃、コロナ後のインバウンド増加に向けて山口県も本格的に取り組み始め、通訳ガイド養成講座を始めたので、お客様の激減した 2021 年に半年間の研修と試験を受けて、「地域通訳案内士（英語）」の資格を取得した。資格取得後は単独で外国人向けのガイドも何度か行っている。海外の方たちに歴史を語るのはなかなか難しいが、萩往還を歩きたいと希望する人たちの多くは日本の歴史、特に江戸期の歴史の基本知識を持っているので、極端に難しい話題は避けて、「武家諸法度」「参勤交代」「幕末」「志士」「明治維新」などというものと萩往還との関わりを、私の話せるレベルの言葉で解説している。当然、時代背景だけでなく、史跡そのものの解説は必須だが、これは何と言っても現物を目の前にしての解説なので理解してもらうのはそれ程難しくない。私の場合、決して流暢な英語ではなく、言ってみれば「度胸英語」である。私世代の日本人は文法に拘りがちだが、極端な話、正確な単語であれば羅列でも通じる。ただし相手の目をしっかり見て話すことが必須である。私の場合、英語力の不足を、イラストを見せること、萩の民謡「男なら」を披露すること、直接は関係なくても趣味のグライダーでの海外フライトの話題を出すなどしてカバーしている。歴史を語ると同時に、自分そのものも語るという訳である。そろそろ、海外からの観光客が復活して来そうな気配があるので、通訳案内士の資格保有者 3 名とスキルをアップすべく、月 1 回の勉強会や相互実地研修会を行っており、今後は海外の多くのお客様にも萩往還の魅力を伝えていけたらと願っている。

実際のガイドとともに、「萩往還の魅力」や「幕末維新史」に関する歴史講演会も、これまで 53 回行ってきたし、地元ミニコミ誌に「イラスト+解説文」という形式で 36 回にわたって萩往還を紹介してきた。またそのイラストを紹介する「萩往還イラスト展」を山口菜香亭や新山口駅で開催してもいる。またガイドとなって以降、14 回ほど地元テレビ局に出演して萩往還の宣伝をしてきた。特に今年 7 月、全国版「にっぽん百低山　東鳳翩山編」に出演した際には、萩往還と東鳳翩山との関わりなどについてお話ししたので、ご覧になった方もおられるかも知れない。

ともかく、リタイア後はこんな感じで、趣味のグライダーの他は「萩往還」に深く傾斜している次第である。所属する「やまぐち萩往還語り部の会」の定年は 75 歳なので、あと 5 年半ある。グライダーの方はそろそろ操縦桿を手放すべき時期に来ているので、今後は萩往還そのものや幕末史、そして英語をさらに深く勉強して、残された 5 年半に、体力の続く限り、萩往還の魅力を内外に伝えていく「語り部」であり続けたいと思っている。以上。

私の近況報告

野村（内田）英昭（S47　文理学部）
電話　090-8248-9972
hnomu0222@yahoo.co.jp　フェイスブック・ツイッターも「野村英昭」でやってます。

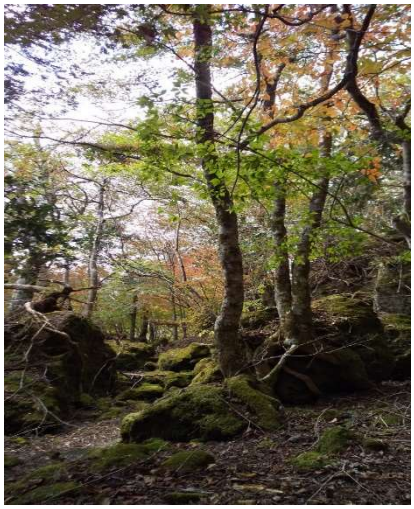
湯布院での OB 総会、久しぶりに顔を合わせた先輩、同期の皆さんと親しく話ができ楽しいひと時でした。懇親会の中で現役の学生とも話ができて、山口県内の山の話になり、あまり知らないということだったので、後日、手持ちの県内の山の本を、練習中にお邪魔して届けました。最近は、ヤマップとかスマホのアプリが充実していて、本や地図を見ながら調べて、というのは少なくなっているようですね。

OB 総会の翌日、私は午後、地元の高校同級生がやるフラメンコの公演をみる予定があったので、みなさんの行動とは別に、ちょっとだけツレと二人で由布岳の麓を散策しました。

以前、由布岳にはよく登っていました。一番好きなコースは、正面登山口から、東麓の日向岳へ向かう「自然観察路」を歩き、東登山口から東峰に上がり、お鉢を一周して、マタエから正面登山口に下りるコース。新緑や紅葉、冬には霧氷に会うこともあり、四季折々に楽しめました。

今回は、「歩くのは二時間」と決めていましたので、正面登山口から、自然林の中を日向岳に向かうコースを四分の三くらいで引き返しました。由布の山すそをまくコースなのですがところどころ谷が深くなり結構アップダウンもあります。カエデやハゼの紅葉、クヌギの黄葉が始まっていて、一組のペアとすれ違っただけの静かな山道です。階段や不要な手入れのない自然林のなかの道。テープだけが頼りで初めての人だと迷いやすいコースで、最近もここで「道迷い遭難」が発生したようです。でも、道を確かめて歩けばそんなに危ないところはなく、のんびり自然を楽しむのに最適。今回も短い時間でしたがいい山歩きでした。

その後の二か月で、由布岳では死亡事故を含む三件の滑落事故が発生し、亡くなったのが、FB で知り合い、パワフルな山歩きの投稿で感心していた女性の方だったのでショックを受けています。私も、以前大好きだったあの一周コースをたどるのはもう厳しいかもしれません。九州の山では、国東半島や大分・宮崎県境などにスリル満点のコースがいろいろあり、私は「剣岳や大キレット、不帰ノ嶮より怖かった」と言ったりしていましたが、そんなコースももう厳しいかな。その分、ゆったりのんびり自然の深さを味わう山歩きを続けていきたいと思っています。



穂高の夏は雨だった

関西支部　山本剛士（S55　経済学部）

8月13～15日、同期の大丸久仁君と穂高に登った。前回の帰らずの嶮から実に5年ぶりの弥次喜多山行である。

平湯温泉のあかんだな駐車場で落ち合い、バスで上高地に入った。コロナ下であるが、それなりに観光客も居、東アジアの言葉も耳にする。台風10号が接近している様だが、すこぶる好天である。初日はハイキング気分で横尾山荘迄。前夜寝ていないので昼食のビールで爆睡する。横尾山荘は風呂も有り快適。

2日目は涸沢経由の穂高岳山荘迄。テレビ等で涸沢は近い様な印象が有るが、上高地から5時間は必要だ。涸沢小屋のテラスでコーヒーを沸かし、いよいよザイテングラードだ。取り付きで一本入れるが、ガスが上がって来て風も出て来た。慎重に登って穂高岳山荘に着いた。辺りは真っ白でテラスからは何も見えないし、少し降り出した。山荘で醤油と豚骨のラーメンをすする。美味い。15時16時、カッパ姿の登山者が続々と入って来る。穂高連峰の中で無くてはならない山荘である事を実感する。西穂から来た人達、岳沢を登って来た人達。そして槍ヶ岳から大キレットを来た人達。乾燥室は雨具から靴まで一杯である。

3日目、朝食会場は前夜の1/3位である。ほとんどの人達は弁当で4時から5時頃、槍や西穂に向けて出発して行った。我々はおかわりをして朝食を済ませ6時に山荘を出る。彼は以前の短パン・ハンスワグナーではなく、今回クライミングパンツにメレル。小生は相変わらずニッカにドロミテ。上下カッパで奥穂高岳に取り付く。一人なら沈か来た道を引き返すだろうなと、同じ事を考えていた様だ。奥穂高岳山頂で写真を撮るもガスって判別し難い。前穂高岳への吊り尾根は雨と風の中で全く見えない。濡れた岩は特に蛇紋岩が滑りやすく、岩場で足を大きく動かすと、ニッカホースはズリ、ドタ靴は重く雨水も染み込んできた。その点大丸君はルンルンで、ドタ靴・ニッカは晴れ専にしようと決意した次第です。それにしても、雨の中大キレットやジャンダルムから西穂高岳へ向かった猛者達。信じられん！紀美子平から前穂高岳山頂へのピストンは視界が無いので断念し、重太郎新道を下って岳沢小屋で名物のカレーを食べ、上高地へと下山。下りてみれば観光地。小梨平で荷物を整え、コーヒーを沸かして次回は南アルプスかな等と語り合った。

眺望は無かったものの、無事下山出来て楽しい山行であった。

2022年10月立山登頂

東京支部　惠谷　浩　(S47 文理学部)

eya-rcrc@waltz.ocn.ne.jp

広島県立福山工業高校機械科昭和37年（1962年）卒業の同級生と紅葉に映える北アルプス・古来より神々が宿る精神的な立山の３峰のうち雄山3003mと大汝山3015mに登頂した。なお、この立山登山は３年前に高校の喜寿クラス会で同君と一緒に皆に参加を呼びかけ、コロナウイルス禍のために延期していたものである。また、筆者は半世紀以上前・昭和44年（1969年）８月末、山口大学２年生のとき、所属していたワンダーフォーゲル部の４人用テント、ラジュースなどを借りて１人で雷鳥沢キャンプ場にテントを張り、サブザックを背負って立山３峰、雄山・大汝山・富士ノ折立2999m、翌日に剱岳登頂を経験している。

10月3日（月）：東京駅10:24発の北陸新幹線で12:31富山駅着。広島県福山市から来た同行者と落ち合い、電鉄富山駅12:52発の電車に乗り、13:55立山駅着。立山ケーブルカーに乗り、14:47美女平。15:00立山高原バスに乗り、スピードを落としてくれた車窓より日本一の落差350mの称名滝を望んだ後、15:50室堂・標高2450mに着。今日の宿である日本一高所・2410mの温泉宿・みくりが池温泉に向けて遊歩道を歩き、雄大な立山を望み。さらに、火口湖で周囲600m・深さ15mの緑色を帯びた紺碧のミクリガ池の湖面に立山や浄土山が映され、誠に神秘的な光景。17:00頃にみくりが池温泉に着。同行者とカップ生ビールで、明日の登山の成功を祈り乾杯し夕食。富山湾で捕れた魚介類が豊富。

【ミクリガ池の湖面に写る逆さ立山(左)と浄土山】

10月4日（火）4:30起床。サブザックにペットボトル水、パン、予備食、上着、雨カッパを入れ準備。6:00朝食。7:10出発。7:40立山室堂山荘。その横に現存する日本最古の山小屋で、国指定の重要文化財の立山室堂があり見学した。立山は富士山、白山とともに日本三霊山と称せられ、日本百名山、花の百名山の一つ。赤色のナナカマドや黄色のミネカエデ・ダケカンバなどや色づく草の立山、浄土山などに感嘆しながら一ノ越まで続く石畳の道を緩やかに上った。下山してくる人は誰もが山頂は突風で吹き飛ばされそうであった、と言う。残雪も望み、9:10一ノ越2700mに達した。その向こうに山頂の神社を見上げ、突風は時々吹くが、ほとんど風がない時間が多い。地形からして山頂も同様だろう。石畳の道から激変して大小の岩石が折り重なる急登。杖はほとんど使えず、岩につかまりながら必死で上り、突風がくると、岩にしがみついて止むのを待った。10:27広く開けた三ノ越に到達。ここからの眺望は非常によくて槍ヶ岳・穂高連峰、薬師岳などの北アルプスや、白山、天候がよければ遠くに富士山も望めるという。ガレ場の坂道を上ると、四ノ越、さらに五ノ越の祠があり、岩場の急登を登ると、遂に感動の雄山に到達。その横には国土地理院の一等三角点があり、槍ヶ岳を望んだ。すぐ近くの鳥居をくぐり雄山神社に、その向こうに雄山神社峰本社3003m。360°の絶景。雄山神社峰本社より数10m引き返した所に、大汝山方面縦走路の標識。稜線沿いの岩稜帯を進んだ後、大小岩石の急登を登ると、12:47感嘆の大汝山山頂3015m。山頂は岩石が折り重なっている。黒部湖と黒部ダム、スバリ岳、針ノ木岳などを望んだ。往路を引き返す。13:55遅い昼食。次第に空は曇り、霧が発生、立ち込めてきた。16:17石畳の道でイワヒバリに遭遇。霧で朝とは異なる紅葉を満喫しながら進み、14:40連泊のみくりが池温泉。ゆっくり温泉につかり、生ビール中ジョッキーで登頂成功を祝して乾杯、夕食。

【雄山神社峰本社にて】

10月5日（水）6:00から朝食。8:00往路を帰宅の途に。富山駅でまたの再会を約して、西と東に向かう新幹線に乗る。筆者は17:00頃に帰宅。缶ビール350mℓで夕食。

【大汝山山頂にて】

【約半世紀前の大汝山山頂と筆者】

６７才の登山事故

九州支部　　岩本 信弥　（S51 経済学部）

2021 年４月に近郊の古処山 860m に、午後から登山。下山途中で左足が岩にひっかかり頭から木に激突。救急病院で第２頚椎骨折、要するに首の骨が折れていると診断され即入院。２ 日後未明一時心肺停止。原因は、誤嚥性肺炎で骨折の影響で食道が極端に狭くなり食事が肺に入ってしまったとのこと。すぐ心肺は動いてくれたが、危なかった。救急病院に 34 日、リハビリ病院に 68 日計 102 日入院しました。

後遺症としては、飲食時によくむせます。今、事故当時を振り返るとぞっとします。主に低山歩きしか今していませんが、下りは、怖いです。皆様は、私の様な大ドジはしないと思いますが、山の下りは、細心 の注意をして安全な山行を楽しんでください。

2022 年 OB 総会にて筆者（下）

8．事務局長挨拶

人文学部4年　籠　広二

今年は大学でのワクチン接種実施やウイルス対策が進んだことにより、規制は残っているものの３年ぶりに夏合宿を行うことができ、無事に成功を収めました。また、海合宿も OB の協力のもと、同じく３年ぶりに行うことができたため、以前の活動内容に戻ってきたのではないかと感じております。

これからのワンダーフォーゲル部での活動を願い、挨拶とさせていただきます。

9．現役報告

夏合宿　PL

経済学部2年　木村　幸誠

初めに

今年の夏合宿は、コロナ禍以降初の合宿であり、学務からのテントを用いた宿泊の規制や現役部員に夏合宿の経験がある者がいないことを踏まえ、縦走を行わずに長野県の木曽駒ケ岳にてピストンのみと例年よりも規模が縮小して行いました。そして、前半は８月23日から８月26日の間で実施し、参加者は１年生が５名、２年生が４名、そして。４年生が１名の計10名でした。また、後半は８月27日から８月30日の間で実施し、参加者は１年生が３名、２年生が５名、４年生が２名、M2が１名の計11名でした。

登山

私が前半グループに参加したこともあるため、ここでは、前半グループの動向について詳しく述べさせていただきたいと思います。

長野県の８月下旬の天候は、不安定であり、天候不良から実施を見送ることも考えるほどでした。しかし、私たちが登山を予定していた日の朝に雲が割れ、日が差してきました。そこで、私たちは、朝の５時に天候判断を行い山に入ることを決めました。

木曽駒ケ岳は、2,000mあたりの山の中腹までロープウェイまで行けます。なので、実際に登山する高さはおよそ1,000mほどであるため、体力的に消耗することもなく、景色を楽しみながら登山ができました。雲の上からの景色や切り立った石壁は、山に登らなければ見ることのできない景色であるため、思わず見とれてしまいました。

そして、登山が終わった後は、みんなで最寄りのスーパーまで買い出しへ向かい、一緒に登山の思い出を語りながら食卓を囲いました。普段はあまり話せていなかった後輩や先輩と話すことができ、絆が深まったと感じています。右側の写真は前半グループの写真になります。

後半組に関する詳細は、文字数や空きスペースの関係で割愛させていただきますが、ルートから当日の天候などまで前半組と大きな違いはなく、実施しました。左側の写真は後半グループが木曽駒ケ岳の山頂で撮ったになります。

最後に

今回の夏合宿はコロナ禍以降、初めての夏合宿でした。そして、大学から登山を始めた初心者の人も多いことからとても心配でしたが、けが人を１人も出すことなく終えることができて本当に安心しています。私自身も21名という大勢のメンバーをまとめるという経験が今までなかったので、ふがいない姿を見せることもありましたが、その度に、後輩や同級生たちに支えられながらPLを務めることができ、成長できたと感じます。最後に、安全対策委員会を開いてくださった先輩方やOB・OGの皆さまやご助言をくださった先輩方やOB・OGの皆さまに感謝申し上げます。

１０．　OB の皆さまへのお願い

（１）ＯＢ会費の納入について

会費有効年を経過して会費未納の場合は自然脱会となりますので、会費の支払いはお忘れなきようお願い申し上げます。脱会になりますと、以後ＯＢ通信の発送等ＯＢ会からの連絡が途絶えることとなりますのでご注意願います。

会費有効年は、皆さまの宛名書きに記載していますが、今一度会費有効年を確認され、もし、相違している場合は、会長または事務局までお問い合わせ願います。

【ＯＢ会費の納入状況についての問い合わせ先】

次頁・会長宛お問い合わせ下さい。

会費有効年に応じて、鳳翮会新規(再)加入のご案内、会費納入について(お願い)、お知らせ、入会申込書、会則、郵便局払込取扱票を同封しています。新規(再)加入及び入会を継続される場合は、お手数ですが、同封の郵便局払込取扱票にて下記へ納入くださいますようお願いします。同封文書は次のようになっていますのでご確認ください。

ア　新規加入の皆さま及びＯＢ会費未納のため２０２２年までに会員資格を喪失された皆さま

鳳翮会新規(再)加入のご案内、入会申込書、会則、郵便局払込取扱票

新規(再)加入を希望される場合は、郵便局振込とともに、入会申込書を送付いただくか、必要事項を会長宛てメールにてご連絡ください。

【送付先】

郵便番号７５３－０８４１　　住所　　山口県山口市吉田１６７７－１山口大学体育会内

宛先　　山口大学ワンダーフォーゲル部

イ　会費有効年が２０２３年の皆さま

会費納入について(お願い)、郵便局払込取扱票

口座記号番号　01530-0-16050

加入者　　山口大学ワンダーフォーゲル部鳳翮会

個人会員年会費　2,000 円（ 夫婦会員年会費　3,000 円 ）

※年会費は、複数年分を一括納入することもできます。一括納入の場合は振込金額を単年会費の複数年倍としてください。個人会員の場合、年会費を 1,000 円の端数で納入されないようお願いします。

新規または再度会費を納入される場合は、会費の有効年は納入年からとして取り扱い致します。

（２）ＯＢ通信の送付について

ＯＢ通信は本来会員の皆さまだけに送付することになっています。

（３）ＯＢ通信・鳳翮会 HP への寄稿について

事務局では、皆さまからのＯＢ通信の寄稿を常時受付けしています。掲載を希望される場合は、会長宛原稿を提出ください。なお、ＯＢ通信の発行の準備の都合上、原稿の提出期限は次のとおりお願いします。鳳翮会 HP は随時受付ます。なお、OB 通信の内容等についてご意見がありましたら、会長までお寄せ下さい。

（４）転居先連絡のお願いについて

OB の皆さまの住所確認については万全を期していますが、OB 通信の発送の都度、数通が転居先不明で返送されてきます。その後、お知り合いの方に転居先を確認し再送していますが、OB 通信の送付が遅れる原因になっています。転勤等で住所を移転された場合は、速やかに会長までご連絡願います。

１１．2022 年本部・支部役員連絡先

・鳳翩会会長

田村　伊正（ 工・昭和５３年卒 ）
〒758-00525 山口県萩市土原 63-3
携帯　090-3177-3876 （家電 0838-25-5775）
E-mail　tamurako@kyouwagrp.jp

・鳳翩会副会長

三國　彰　（ 工・昭和 55 年卒 ）
田原　宏　（ 工・昭和 57 年卒 ）

・鳳翩会幹事

田中　秀平 （ 農・昭和４７年卒 ）　石川　忠　（ 教育・昭和 49 年卒 ）
古谷　眞之助（ 経済・昭和５２年卒 ）　坂田　信一 （ 理・昭和 57 年卒 ）
浅野哲郎　（ 工・昭和 61 年卒 ）　齊藤　昌彦 （ 農・昭和 60 年卒 ）　※兼会計担当

・鳳翩会事務局長

籠　浩二 （ 人文学部・４回生 ）
連絡先〒753-0841 山口県山口市吉田１６７７－１山口大学体育会内ワンダーフォーゲル部

・会計監査

平野　展康（ 経済・昭和 59 年卒 ）　日野　耕二（ 経済・昭和５８年卒 ）

（ 東京支部 ）

支部長　城戸　賢嗣 （ 経済・昭和４９年卒 ）
副支部長　高田　哲生 （ 工・昭和４９年卒 ）
事務局長　秋山　高弘 （ 経済・昭和５３年卒 ）

（ 関西支部 ）

支部長　池田　純　（ 工・昭和５１年卒 ）

（山口支部 ）

支部長　坂田　信一 （ 理・昭和 57 年卒 ）
支部幹事　徳田　宏子 （ 教育・昭和 57 年卒 ）
支部幹事　川地　翔子 （ 農・平成２６年卒 ）

（九州支部 ）

名誉支部長　永沼　嗣朗 （ 経済・昭和３９年卒 ）
支部長　龍　純二　（ 文理・昭和５０年卒 ）
事務局長　天野　雅紀 （ 経済・昭和６１年卒 ）

【編集後記】

２０２２年夏号を発刊した頃から秋にかけて、コロナの状況も治まりつつあり、無事に３年ぶりのOB総会を開催することができました。また、各支部でも自粛していた活動もコロナには十分に気を付けて、活動が開始されています。来年もコロナの対策をしながら、今年に引き続き OB 会の開催を継続していきたいものです。また、OB 通信の冬号の編集をさせていただきましたが、こちらの不備もあり、原稿投稿にご迷惑をおかけしました。これからも皆様方からのたくさんの原稿を期待しておりますのでよろしくお願いします。

編集長　田原　宏

鳳翼会
山口大学ワンダーフォーゲル部OB会